

# Influence of the watch and wait strategy on clinical outcomes of patients with follicular lymphoma in the rituximab era

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2017-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 油田, さや子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002050">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002050</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1881 号

Influence of the watch and wait strategy on clinical outcomes of patients with follicular lymphoma in the rituximab era

(リツキシマブ時代における、無治療経過観察を選択された濾胞性リンパ腫患者の臨床経過)

油田 さや子 (ゆだ さやこ)

博士 (医学)

#### 論文内容の要旨

濾胞性リンパ腫 (FL)は、無症候性である場合、無治療経過観察 (WW) を選択しても、直ちに治療介入を行った場合と比較して予後に差が認められないと報告されてきた。1997年にリツキシマブが米国FDAにより承認され、FL患者への早期治療介入の意義が欧米から報じられている。そこで、われわれは WW が濾胞性リンパ腫の臨床経過に与える影響を検討することを目的として本後方視的調査研究を実施した。2000年1月から2012年12月までに国立がん研究センター中央病院で、病理組織学的に FL, グレード1, 2, または3aと診断された患者を対象とし、WW群におけるその後の治療介入を要するリスク因子、および WW 群と早期治療介入群との予後を比較した。対象患者は348人であり、初回治療として101人(29%)が無治療経過観察、あるいは247人(71%)が早期治療介入を選択された。早期治療介入群では、PS 1以上、FLのグレード2以上、FLIPI high risk, GELF 規準による高腫瘍量の患者が多く含まれていた。無治療経過観察ののちに治療が開始された患者は45人であり、その治療開始までの期間中央値は16か月 (range: 7-169) であった。初回治療後の腫瘍増大までの期間の推定中央値は、無治療経過観察群92か月、早期治療介入群77か月であり、有意差を認めなかった (P=0.272)。全生存期間については、追跡期間中央値75か月、死亡イベント数19であり、無治療経過観察群と早期治療介入群で有意差はを認めなかった (P=0.294)。死亡リスクに関する多変量解析では、臨床病期、年齢61歳以上、形質転換が危険因子であった (HR 1.18, 95% CI, 1.02-1.38, P<0.05)。形質転換するまでの期間については、中央値54か月、イベント数19であり、無治療経過観察群と早期治療介入群で有意差を認めなかった (P=0.64)。また、形質転換のリスクとして検出されたものはなかった。リツキシマブ時代においても、一部の FL 患者では無治療経過観察が許容される初回治療の選択肢の一つであることが示唆された。今後は、FL に対する WW および早期治療介入の意義、および適切な治療介入規準を確立するための前方視的ランダム化比較試験が必要である。